

すぎなさん



三宅小学校同窓会 会報 第17号 令和4年3月11日発行

三宅小学校全校児童数 85名（男45名 女40名）令和4年3月現在

ご挨拶 三宅小学校同窓会長 田中 治（第59回 昭和43年卒 仮屋区）



同窓会員の皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会活動に深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この会報誌のタイトルである「すぎなさん」ですが、今は鬱蒼として昔の面影はなく、子供達にはあまり馴染みがないかもしれません。しかし、私が小学生の頃は周辺に大きな木がなく、陽が当たると冷たい湧き水の流れる水面がキラキラ輝いており、この懐かしい原風景は、まさに「心のふるさと」といえる場所です。

コロナ禍の教育現場では、感染対策と両立させながら学校行事を実施するために知恵を絞ることが求められており、先生方や保護者の皆さまのご苦勞は計り知れません。子供達は今マスク着用で学校生活を送っていますが、感染予防として必需品であるマスクが、表情を読み取るうえで大切な要素である口元を隠すことにより、

子供達同士のコミュニケーションの妨げになっているのではないかと危惧しています。子供達の明るい笑顔が見られるマスクのない生活が、一日も早く訪れることを願うばかりです。

同窓会は子供達と地域を結ぶ懸け橋であり、会員の皆さまには、今後とも三宅小学校に対しまして更なるご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますご挨拶とさせていただきます。

みやけの里 三宅小学校長 塚本 嘉夫(第67回 昭和51年卒 仮屋区)



同窓会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動につきまして、特段のご支援とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

おかげさまで、子どもたちは同窓会員の皆様をはじめ多くの方々を支えられ、自然豊かなこの「みやけの里」で日々たくましく成長しています。4月には校門の桜が美しい花を咲かせ、新入生を迎えます。夏はプール学習、校舎の周りでセミが元気な鳴き声を響かせます。秋になると芝生広場で子どもたちが虫を追いかけ、冬にはグラウンド横の斜面でそり滑り、四季折々、みやけの里で子どもたちが元気にかけまわっています。この風景がこれからもずっと続いてほしいなあと

思いながら、子どもたちの楽しそうな姿を眺めています。

ところで、今年度の児童数は85名、次年度の新入生は10名で令和4年度は78名となる予定です。初の70人台となりますが、その次の年はまた少し増え、しばらくは85人前後で推移する見込みだそうです。同窓会員の皆さんが在籍しておられた頃の人数はいかがだったでしょうか。ずいぶん大きな差があることと存じます。しかし、たとえ人数は少なくなっても、子どもたちは「みやけの里にもえいづる！」の校歌のもと、大いに学び、語り合い、切磋琢磨しながら、この歴史と伝統ある三宅小学校を受け継いでいってくれることでしょう。

同窓会員の皆様には今後ともたいへんお世話になりますが、変わらぬご支援ご鞭撻のほどよろしくお礼申し上げます。

思い出

第62回（昭和46年卒）藤谷 有市（日笠区）

三宅小学校を卒業して前半世紀が経ち、卒業時には37名いた友も、現在は35名になりました。

私も今年で63才、お陰様で年金を貰う年となりました。小学校を卒業して色々な思い出もすっかり薄れていく中で、やっぱり印象深い出来事は心に鮮明に残っているものです。冬の時期が来る度に思い返されることは、私の子供の頃は自分の身長に近い雪がよく降り、つららも屋根の軒先から長く伸び凄なものだったということです。その当時は、長靴も今ほど良い物ではなく長時間歩くと足先はじんじんとしびれ冷たさと痛さはピークに達し、家に帰り急いで温めるとむずむず痒く、しもやけになるという悪循環でした。

今はすぐに暖まるエアコンがありますが、当時の教室は、「黒い軽石」の様なコークスをストーブの口に当番に入れるというものでした。暖まるまでに何十分もの時間を要するだけでなく、ストーブに近い前列の生徒はボーッと暑くなり顔が真っ赤っかになるし、後列の生徒は肌寒いものでした。

あの頃は、誰もが文句を言わずに勉学と遊びに一生懸命になっていました。

学校給食では、揚げパンと鯨の竜田揚げが大人気で、それを楽しみに（笑）学校へ行った様なものでした。

下の娘が小学校に通っているときには、次のようなことがありました。

ある日、娘が学校から帰ってくるなり「お父さん。私の借りた本を、お父さんも借りているんやわ!」と言うのです。よくよく聞いてみると、娘の借りた本の図書カードに私が書いた名前があったのです。ちなみにその本は「シートン動物記」です。娘が小学校の頃の私と同じ本を読んでいることにびっくりですが、未だに私の名前があったことにも驚きました。親子共々三宅小学校にお世話になり、今もこうやって繋がっている不思議な絆を感じました。

これからは少子化により学校の児童数が減少していきます。さらに、今はコロナ禍の中で学校生活にもいろいろな制限があります。その様な状況ではありますが、子供達には学校生活を伸び伸びと有意義に送ってほしいと思います。



「思い出」

第63回（昭和47年卒）田中 和也（日笠区）

三宅小学校を卒業して早いもので50年が過ぎました。この度、同窓会誌の寄稿依頼を頂き懐かしく当時は振り返っています。断片的な記憶になり恐縮ですが綴らせて頂きます。

確か小学校三年生くらいまでは木造校舎だったと思います。自分が小さかったからですが、木造校舎がすごく広く感じられました。一階の渡り廊下の調理室から給食の食缶を教室へ運ぶのは大変でした。理科室や図書室などは、独特の古めかしい感じがしていたように思います。音楽室の上には和室があり、時々映画などの上映があったように記憶しています。鉄筋校舎が完成した時、三月頃に屋上まで上がらせてもらい、小浜の海が見えたのが嬉しかったのを覚えています。

また、この同窓会誌のタイトルにもなっている「すぎなさん」ですが、瓜割から流れてきた清流が校庭の裏山に小川となって流れていました。理科の学習か何かで「すぎなさん」へ行った思い出があります。現在は面影がなくなり残念です。

全校児童が講堂（今の体育館）に集合してグループごとにモデルの人をスケッチブックに描くクロッキータイムがありました。上級生の絵

がすごく上手で刺激を受けました。このような美術教育をしている学校は今も聞いたことはありません。

高学年になって放送部に入りました。放送室は今の職員玄関の近くにありました。朝礼が講堂で行われ、音楽などをかける役目でしたが、講堂からブザーの連絡があると緊張して機械を操作していたものです。

断片的な記憶ですが、当時の場面が鮮やかに思い出されます。母校である三宅小学校で人間性の基礎が築かれたと思います。卒業後も、教職員として勤務させて頂いたり、地域住民として体育大会などに参加させて頂いたり足を運ぶ機会があり、有難く思っております。これからも心のふるさととして三宅小学校があり続けることを願っています。



三宅小学校の思い

第75回（昭和59年卒）松岡 秀典（市場区）

私が三宅地区に帰ってきてから二十数年たちます。帰ってきてからはほぼ毎年、何らかの行事で小学校を利用させていただきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止からここ数年は行事が中止となり、三宅小学校を訪問することもなくなりました。

思えば三宅小学校で開催される行事は地区体育大会など、地区民が集まる行事であるため、日ごろ疎遠になりがちな他集落の方とお会いできる貴重な機会でした。新型コロナウイルスでなかなか集まることのできないことになって、初めて他の集落の方と一堂に会し、元気な姿を確認することの大切さを実感しました。

新型コロナウイルスだけでなく、大きな災害のニュースを聞くこともめずらしくなくなりま

した。毎年どこかで地震や洪水などの災害が起こっています。今後も残念ながら増えていくのではないかと思います。不幸にもこのような事態が発生した場合、小学校並びに同窓会の持つ意味は大きいのではないかと感じています。

三宅小学校の同窓生として同窓会誌原稿を執筆させていただくことになり、学生時代を思い出しながら考えていましたが、過去よりもこれから先も続く三宅小学校が単なる学び舎でなく同窓生にとっての拠り所になればと思うようになり、このような投稿を書かせていただきました。何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますようお願い申し上げます。

国語の時間

第75回（昭和59年卒）宮田 勉（市場区）

五十路を過ぎ、小学生時代を振り返ってみると、運動会、遠足、修学旅行などが有り、楽しく過ごしていた様に思います。

その遠い昔の記憶の中の小学4年生のある日の出来事です。

「キンコーン、カンコーン、キンコーン、カンコーン」とチャイムが鳴り、国語の授業が始まって少しした時、ベランダの方から物音がするので、「何だろう?」と思っていると、椅子を載せた机を抱えた二人の生徒が6年生の担任に連れられて非常階段を3階から2階に下りてくる音でした。二人の生徒は机を抱えたままベランダから私達の教室に入ってくるではありませんか。聞けば、6年生の担任から「二人は休み時間にイタズラをしたので、この時間は4年

生として授業を受けるように」と言われたということでした。

二人を加え授業が再開すると、私たちの担任が6年生の一人に「『句読点』の読み方は?」と質問しました。その6年生は即座に「『くどくてん』です」と大きな声で答えました。私が「さすが上級生やな」と感心していると、周りの数人の生徒が「くすくすっ」と小さく笑います。先生が、今度は4年生に読み方を問うと、指名された4年生は「『くどうてん』です」と答えました。先生が落ち着き払った声で「正解です」とおっしゃられた瞬間、子供心に私は決めました。悪い事（イタズラ）をするのは止めよう…。

あの時の二人の6年生の中の一人が身内だったことは、**秘**事項にしてみました。



【第75回卒業生のみなさん】百周年記念誌より

【地域交流会】2021. 11. 20

学校と保護者・地域とが連携して、学校の子どもたちとご家族、地域の方々とが、昔遊びや貝殻ろうそく作り、輪投げなどのいろいろな体験を通して交流を行いました。また、防災や下水道について学びました。今年もボランティアさんや公民館にお世話になって栽培したネギやもち米の販売を行い、用意した分を完売することができました。また今回は三宅地区在住のタイやミャンマーから来日されているの方々にも参加していただきセパタクロー等を通して交流しました。



三宅小学校 同窓会費 決算報告

収入の部

項目	金額(円)	備考
前年度繰越	4,396	
会費	114,640	300円×約390人
入会金	8,500	500円×17人
貯金利息	0	
計	127,536	

支出の部

項目	金額(円)	備考
事務費	4,200	切手、用紙
会議費	0	紙面決議
同窓会会報誌	53,752	トナー、用紙
維持管理費	50,000	芝生管理
同窓会事業基金	10,000	積立
計	117,952	

※今年から会費の振込には手数料がかかるため、300円では割り切れない額になっています。



【芝生でのグラウンドゴルフ】

同窓会費の一部は、学校の芝生広場の管理に使わせていただいています。

差引残高

9,584円は、次年度の会計に繰越させていただきます。

令和4年3月4日

編集後記

ここに皆様の母校への思いがこもった「すぎなさん第16号」が完成いたしました。この発行を通して旧交を温めていただけましたら幸いに存じます。最後になりましたが、今後益々の同窓会員皆様方の御健勝をお祈り申し上げます。

同窓会会報誌は、三宅小学校ホームページでも配信しています。

<http://edu.town.wakasa.fukui.jp/s-miyake/>

令和3年度

三宅小学校同窓会 会報誌編集委員

宮田 勉 (市場区理事 第75回卒)
 松岡 秀典 (市場区理事 第75回卒)
 藤谷 有市 (日笠区理事 第62回卒)
 宮田 良平 (日笠区理事 第78回卒)
 大谷 由喜男 (同窓会幹事)

同窓会事務局 住所

〒919-1542
 福井県三方上中郡若狭町井ノ口49-11
 三宅小学校内
 電話 : 0770-62-0005
 FAX : 0770-62-0038
 電子メール : miyake-es@edu.town.wakasa.fukui.jp